

5 - 3

嗅覚以外の鼻の機能として誤っているのはどれか。

- a 吸気の加温
- b 吸気の加湿
- c 吸気の浄化
- d 音声の増強
- e 音声の共鳴

5 - 4

下鼻道に開口する副鼻腔または管腔はどれか。

- a 前頭洞
- b 上頸洞
- c 蝶形骨洞
- d 鼻涙管
- e 耳管

5 - 7

鼻・副鼻腔の解剖で正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 前頭洞はその形・大きさの個人差が著しい副鼻腔である。
- b 前篩骨洞は数個の骨蜂巣の集まりからなる。
- c 後篩骨洞は単一の洞である。
- d 蝶形骨洞の上内側壁に視神経管がある。
- e 鼻涙管は下鼻道に開口する。

6 - 19

鼻中隔弯曲症について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 突出側が萎縮性鼻炎になりやすい。
- b 上頸骨と鼻中隔軟骨の接合部で曲がるものが多い。
- c 主症状は鼻閉塞と頭痛である。
- d 耳管や中耳に悪影響を与えることがある。
- e 治療はVidian神経切除を行う。

6 - 2

上頸洞手術 (Caldwell-Luc法) で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 上頸洞粘膜を剥離して摘除する。
- b 篩骨洞炎があれば同時に篩骨洞も開放する。
- c 自然孔を拡大して対孔を作製する。
- d Bellocq タンポンを挿入して手術を終える。
- e 手術後数年の経過を経て、術後性上頸囊胞を発症する可能性がある。

6 - 3

鼻茸について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 中鼻道にみられることが多い。
- b 副鼻腔炎に起因する。
- c 主症状は鼻閉塞である。
- d 悪化化することがある。
- e 消炎酵素薬の投与で消失する。

6 - 7

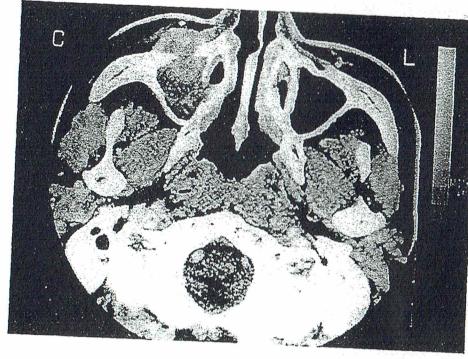
重要

076/141

49歳の男性。右頬部の腫脹と疼痛とを主訴に来院した。4か月前から右の頬部痛と歯痛とが出現し、徐々に増悪してきた。2か月前から右頬部の腫脹を伴うようになった。血の混じった悪臭の鼻漏を認める。副鼻腔手術の既往はない。副鼻腔単純CTを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 眼窩炎性偽腫瘍
- b 急性副鼻腔炎
- c 慢性副鼻腔炎
- d 歯性上頸洞炎
- e 上頸悪性腫瘍



6 - 10

0

術後性上頸（頬部）囊胞について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 上頸洞炎の手術後数か月以内に発症する。
- b 鼻腔内に著変を認めないことが多い。
- c 眼球突出を合併することがある。
- d 頬部の有痛性腫脹を反復しやすい。
- e 頸部リンパ節腫脹を認めることが多い。

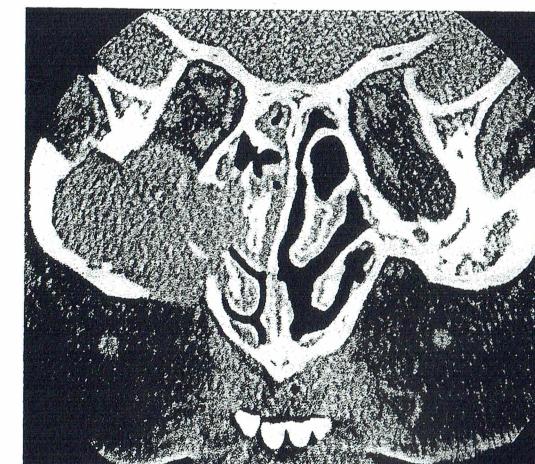
6 - 9

078/141

49歳の男性。数年前から右頬部腫脹、頬部痛、歯痛および右眼の違和感を繰り返しており、抗菌薬の内服で軽快していた。歯肉部からの穿刺で暗褐色の粘稠な液体が吸引される。28年前に両側の副鼻腔手術の既往がある。副鼻腔単純CTの冠状断写真を別に示す。

考えられるのはどれか。

- a 眼窓腫瘍
- b 慢性副鼻腔炎
- c 歯性上頸洞炎
- d 術後性上頸囊胞
- e 上頸腫瘍



6 - 17

086/141

50歳の男性。エックス線検査で、左上頸洞に異常陰影があり、内側壁の一部に骨欠損像を認める。

考えられる疾患はどれか。3つ選べ。

- a 乾酪性上頸洞炎
- b 急性上頸洞炎
- c 歯性上頸洞炎
- d 上頸癌
- e 術後性上頸（頬部）囊胞

5 - 2

058/141

58歳の男性。大量の鼻出血のため救急車で来院した。朝6時頃、右鼻出血があったが10分ぐらいで自然に止血した。2時間後に再び鼻出血が始まり、今回も止まらない。口腔からも血液を吐き出している。前鼻鏡検査では上鼻道後方から多量に出血しているが、出血点は確認できない。

適切な止血法はどれか。

- a 鼻根部を冷やす。
- b 鼻翼を正中に向かい圧迫する。
- c 後鼻孔側タンポン (Bellocq タンポン) を挿入する。
- d 電気焼灼を行う。
- e 内頸動脈結紮を行う。

6 - 1

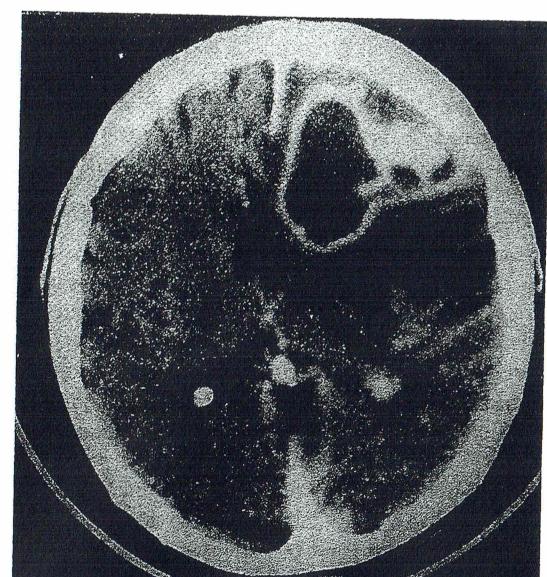
重要

070/141

48歳の男性。昨夜から頭痛の悪化、嘔吐および意識障害がみられるようになったため救急車で搬入された。1か月前から上頸のう歯のため鈍痛が持続していた。4日前から発熱、顔面痛および頭痛を自覚していたが放置していた。意識は昏迷状態で項部硬直と右不全片麻痺とを認める。頭部造影CTを別に示す。

この脳病変を最もきたしやすいのはどれか。

- a 鼻茸
- b 慢性鼻炎
- c アレルギー性鼻炎
- d 鼻中隔弯曲症
- e 急性副鼻腔炎



6 - 15

眼窓吹き抜け骨折について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 高齢者より青少年に多い。
- b 側方視で複視を訴えることが多い。
- c 眼球突出を認めることが多い。
- d 瞳孔散大を認めることが多い。
- e 眼底は正常であることが多い。